

第10回肝臓病教室

このたび、第10回肝臓病教室が平成25年10月29日に開催されました。今回も25名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「肝臓癌」です。

まず、田中医師より「肝臓癌と診断と治療」について講演がなされました。

肝臓癌の原因としては、肝炎ウイルスが上げられ、主にC型肝炎(81%)、続いてB型肝炎(13%)となります。肝炎を指摘されている方は、定期的に採血、エコー、CT、MRI等の検査を受けることが必要です。肝臓癌の治療としては、主にラジオ波焼灼療法(RAF)、経カテーテル肝動脈塞栓術(TACE)、分子標的治療薬(ネクサバル錠)などがあります。ラジオ波焼灼療法は、病変に挿入した電極の周囲をラジオ波で凝固壊死させることが可能です。一回の焼灼では、径3cmの範囲を完全に壊死させることが可能です。最後に、肝臓癌を早期に発見するための検査の必要性や発癌リスクを下げるための抗ウイルス治療について話されました。



続いて、橋本医師より「肝臓癌に対する肝動脈化学塞栓術(TACE)」について講演がなされました。肝臓癌は、動脈血流が豊富になり栄養を受け、癌が大きくなるとされています。動脈に薬剤を流し込み、腫瘍を兵糧攻めにする治療を肝動脈化学塞栓術といいます。長所は治療開始から終了まで1~2時間と短く、足の付け根からカテーテルを入れるので傷口は2~3mmと小さいこと、身体への負担が少なく約1週間程度で退院と出来ることです。短所として早期肝臓癌には、治療効果が少ないことを話されました。



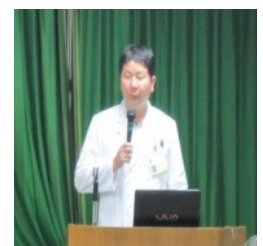
さらに、高橋看護師から「ネクサバル錠の副作用について」の講演がなされました。ネクサバルの副作用として皮膚症状で手足症候群や皮疹があります。手のひらや足の裏にひりひり、ちくちくした違和感や赤く腫れることもあります。予防のポイントは、まず皮膚症状が出てきた場所をシャワー浴などで清潔に保つこと。また、皮膚が乾燥しないように保湿剤を塗ることなどを話されました。



また、藤本管理栄養士から「肝臓癌と食事療法~栄養療法の必要性~」の講演がなされました。肝臓癌における栄養の役割は、基礎体力の維持や低栄養予防(LES)です。合併症への対応として、肝性脳症にはタンパク質調整と食物繊維確保、腹水には塩分制限、食道静脈瘤には刺激の少ない食事摂取が大事になります。具体例として、今の時期よく食べられる鍋料理について話されました。多様な栄養を一度に摂取できる鍋料理は、ヘルシーであり、いろいろな味も楽しめるが、食べ過ぎてしまうこと、塩分を取りすぎてしまうことに注意が必要になります。



最後に福本ソーシャルワーカーから「介護保険制度について」の講演がなされました。介護保険制度を利用するには、本人、家族、ケアマネジャーが市町村の窓口に行き申請をします。申請を行うと認定調査とともに、主治医意見書が主治医のもとに送られてきますので、かかりつけ医に一言声をかけておくといよいでしょう。要介護に認定されると、さまざまなサービスを受けることが出来、生活の質を整えていくことになります。制度を十分に活用して頂きたいと思います。



消化器内科では、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。